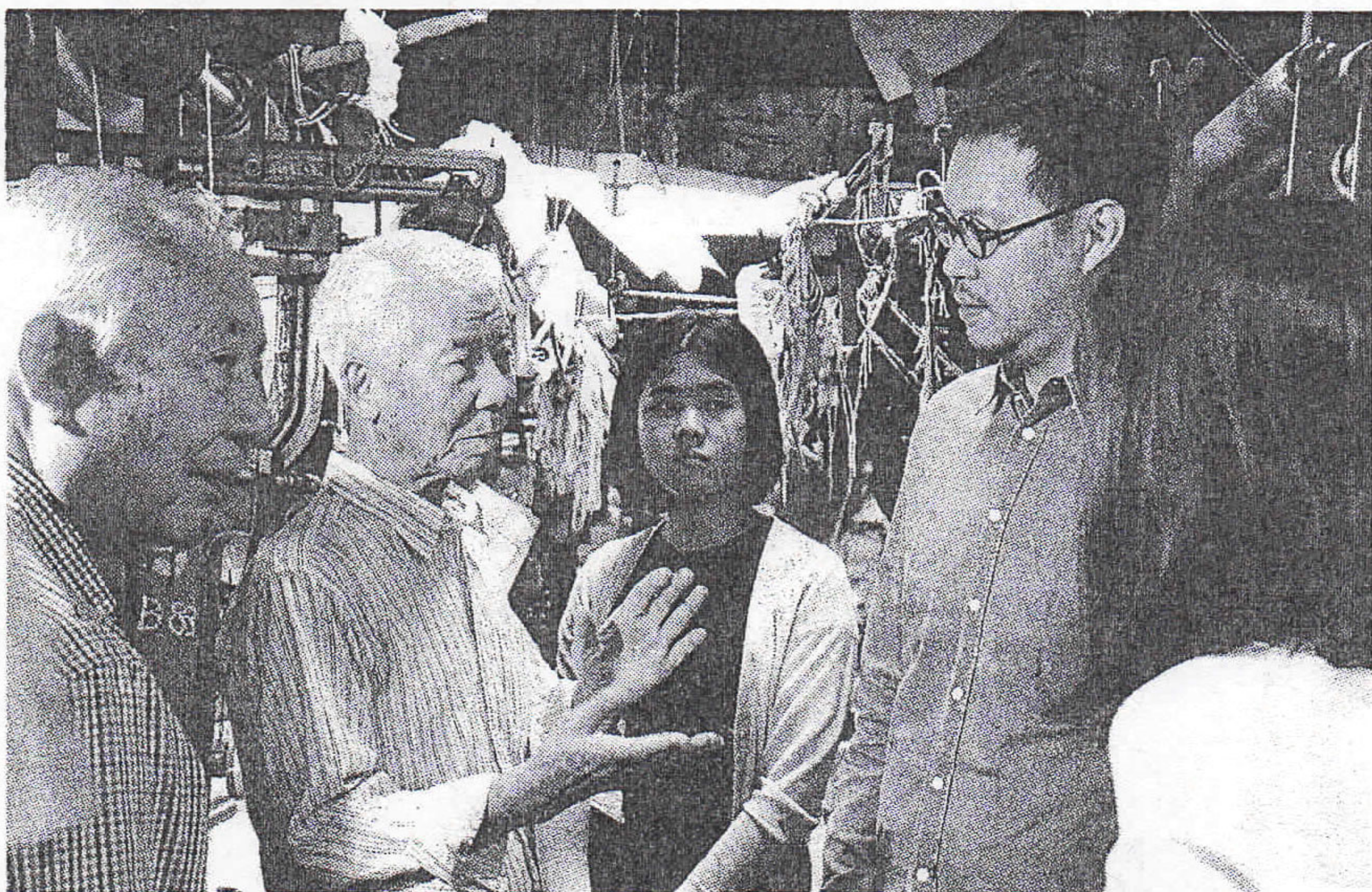


# シンガポールのデザイナー来桐 繊維関連2社を訪問

## 国の支援で協業する「共プロジェクト」で



シンガポールのデザイナーと関東地方のものがづくり企業が国の支援の下で協業する「共

(KYO)プロジェクト」が今月発足した。15日にはデザイナーらが桐生市内の繊維関連2

社を訪ね、商品や工場を見学。新商品開発の方向と可能性を探った。プロジェクトはシン

松井ニット技研を訪れたクリス・リーさん(右から2人目)とシエリス・チャンさん(同3人目)

ガポールのデザイン集団「PHUNK(フアUNK)」共同設立者のジャクソン・タンさんが統括し、朝倉染布(浜松町一丁目、朝倉剛太郎社長)をはじめ、繊維、ガラス、木工など関東の10社が参画。経済産業省関東経済産業局とシンガポールデザイン庁が協調支援し、同国での販路開拓につなげる。

企業訪問は13日から17日までの予定で経産局が企画。現地で9日まで開かれた同局主催の展示会で評価が高

かった松井ニット技研(本町四丁目、松井智司社長)を含め、プロジェクト外の3社を加えた13社を巡る。

桐生の2社を訪れたのは、空間デザイナーのクリス・リーさん(45)と、タンさんが所属する広告会社のプロデューサー、シエリス・チャンさん(22)ら4人。午前中は松井ニット技研で商品や生産設備の説明を受けながら、社内のデザイン体制やあえて古い機械で生産する理由を熱心に質問した。

見学を終えたリーさんは「クッションや内装でコラボレーションできる可能性は十分ある」と感想。松井社長(78)も「衣料以外に幅を広げたいので、協業は望むところ」と意欲をみせた。

# 布染倉朝 シンガポールのデザイナーと意見交換 海外販路開拓に意欲

共プロジェクト

シンガポールのデザイナーらと関東地方のものづくり企業10社が連携して新商品開発と販路開拓に挑む「共(KYO)プロジェクト」で、参画企業の1社で染色整理業の朝倉染布(桐生市浜松町一丁目、朝倉剛太郎社長)を15日、デザイナーらが訪れ、商品づくりに向けて意見交換した。

撥水(はっすい)加工技術を応用した風呂敷を中心に独自ブランド商品を展開する同社。朝倉社長(45)は



プロジェクト参画の狙いを「国内だけでは閉塞(へいそく)する。生き残りのための海外

展開は単独では難しく、販路開拓につなげたい。優秀なデザイナーとつき合う機会にもなる」と語った。

午前中の松井ニット技研に続き、空間デザイナーのクリス・リーさん(45)ら4人が工場見学と会社の特徴や技術的な強みについて説明を受けた。

その後、新商品の方角性で意見交換。朝倉社長は「撥水に特化した商品開発をしたい」

サンプル生地を見ながら意見交換する関係者ら(朝倉染布で)

と希望を伝えた。リーさんはアジア圏では屋外のバーが多い点に着目し、「テーブルクロスやいすのカバーに使えるメリットがある」と語った。

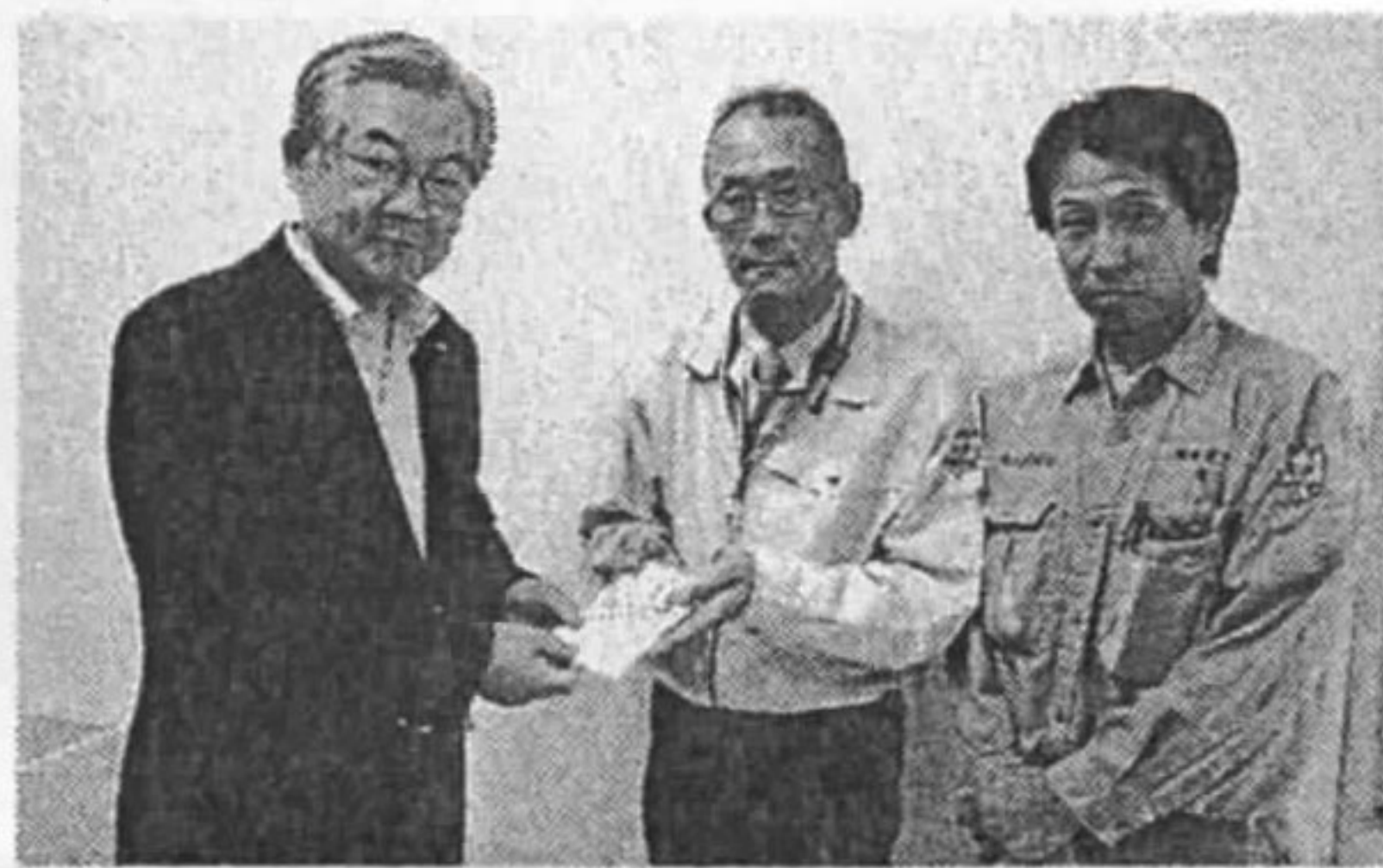
## チャリテイーの収益金を社協に

桐生ガス

桐生ガスは13日、相生支店で5月に催した「春のガス展」のチャリテイーイベントの収益金20万円を桐生市社会福祉協議会に寄付した。

相生支店の大島俊邦支店長と島誠一郎課長補佐が同協議会を訪ね、高松富雄常務理事に目録を手渡した。寄付金は震災復興のほかに、協議会が行う婚活事業や高齢者見守りな

今後、両者間で具体的な検討を進め商品化。完成した商品は来年3月にシンガポールで開かれる国際展示会に出展される。



高松常務に寄付金を手渡す大島支店長

どの地域福祉活動に役立てられる。高松常務は「毎年続けていただいてありがたい」とお礼の言葉を述べた。

# デザイナー一行 製品に興味津々

シンガポールから桐生に

関東の企業との共同事業を旨指すシンガポールのデザイナーたちが15日、桐生市の企業、松井ニット技研と朝倉染布を訪れた。関東経済産業局とシンガポール・デザイン庁の合同企画で、4日間の日程で13社を訪れる。県内ではこの2社が対象となった。

シンガポールは人口約550万人の国だが、強い経



松井ニット技研の松井智  
司社長(左)から説明を  
受けるクリス・リーさん  
(中央) 桐生市本町4  
丁目の松井ニット技研

28. 6. 16

済力を誇る。周辺国から富裕層が買い物に来る国としても知られ、経産産業局はシンガポールを足がかりに東南アジア市場を開拓したいと考えた。今月3日から9日までシンガポールで42社の製品を展示。その中から、この企画に関わるデザイナーが興味を持った13社が今回の訪問先という。

桐生を訪れたのはインテリアデザイナーのクリス・リーさん(45)ら5人。午前中は松井ニット技研の工場を見た。一行が注目したのはマフラーを中心とする同社のデザインで、「ホテルやレストランの壁紙に使えないか」などと提案していた。

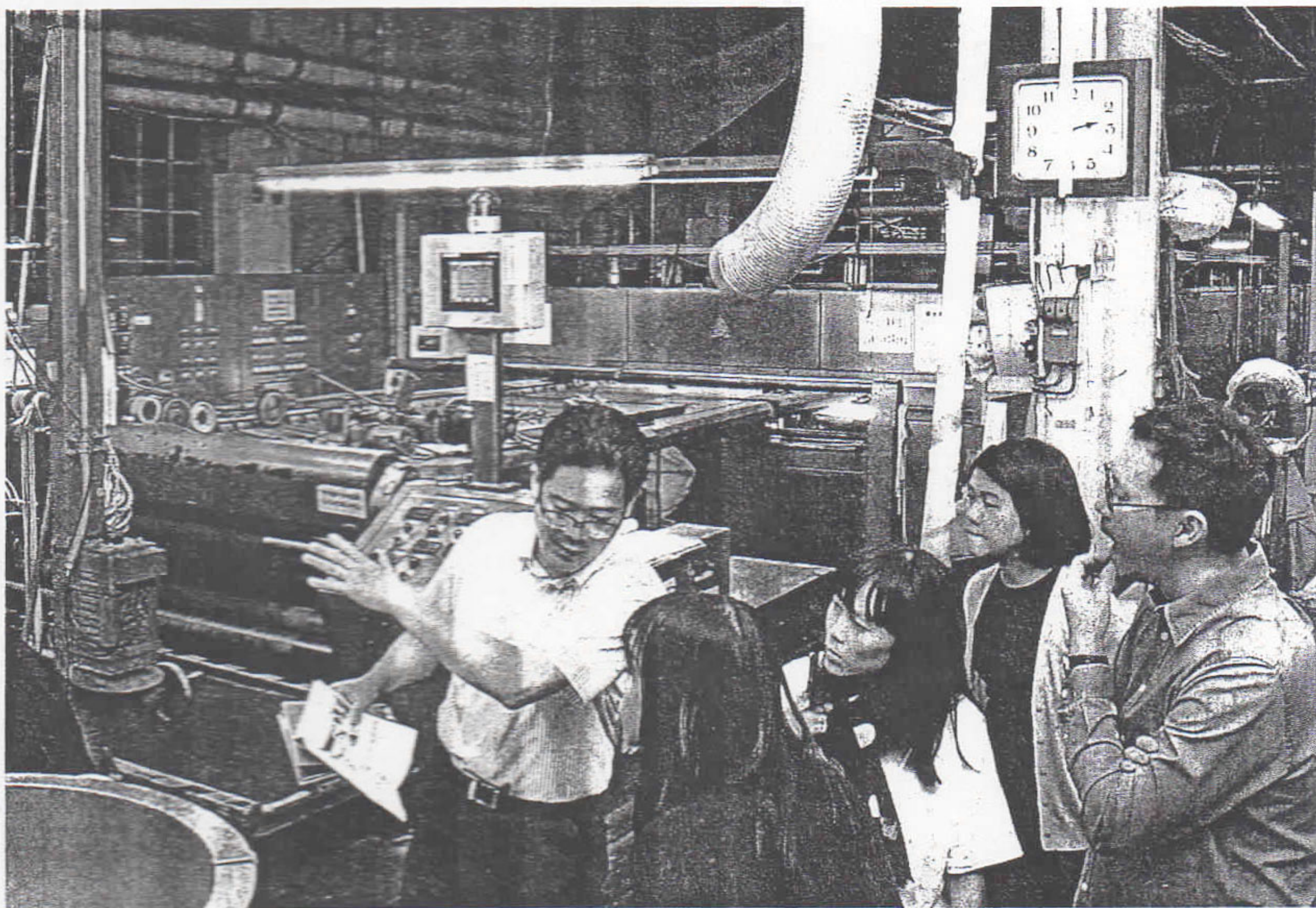
午後は朝倉染布を訪ねた。同社は染色加工の専門会社で、最近では超撥水加工を施した風呂敷の売れ行きが好調だ。一行の関心もこの特殊加工に集中した。新しい用途の開発や、ホテル向けにつくって納めたものを、一般向けにして売り出す方策などについて意見交換した。

28. 6. 16 上毛社会

# 桐生の技術で商品開発

## シンガポールの繊維2社を見学 デザイナーに製造工程を説明する

桐生市の繊維産業の技術を取り入れた商品開発の可能性を探るため、シンガポールのデザイナーら5人が15日、松井ニット技研（本町）と朝倉染布（浜松町）を訪問した。両社のヒット商品や独創的な技術を視察し、新商品の構想を練った。



シンガポールのデザイナーに製造工程を説明する  
朝倉染布の朝倉社長(左)

松井ニットでは、独自の鮮やかな配色のマフラーなどを生産する工程を見学。

松井智司社長(78)が「デザイナーは社員全体で決めていく。ニューヨーク近代美術館(MOMA)の売店のスカーフ部門で7年連続最高額の売り上げだった」と説明すると、デザイナーらは驚いたようだった。

朝倉染布では撥水技術を生かしたふろしきやレインコート、水着の製造工程を見た。朝倉剛太郎社長(45)は特殊な技術で布にフッ素を付けていることを紹介した上で「撥水効果がこまめな力で、耐久力があるのは当社だけ」とPRした。

インテリアデザイナーのクリス・リーさん(45)は「シンガポールにはこうした工場がなく、見学できたことでさまざまなことに気

づいた。商品化の可能性は大いにある」と話していた。関東経済産業局が同国デザイナーと連携する事業の一環。「共(KYO)プロジェクト」と銘打って、関東の企業とシンガポールのデザイナーを結び付けて商品化し、来年3月に同国で開催される国際展示会への出展を目指す。

4社10人のデザイナーが14、17日に関東と長野、新潟の13社を巡る予定で、本県から両社が選ばれた。

「情勢変化しても  
パートナーで」

中国大使館の  
張参事官講演

県日本中国友好協会(中村紀雄会長)は15日、前橋市内で本年度総会を開き、事業計画案や予算案を承認したほか、中国駐日大使館の参事官、張社平さんが講演した。

中村会長は「文化の交流は心の交流。重要性を増す経済と文化の発展に尽力したい」とあいさつした。

張さんは「大切な中日関